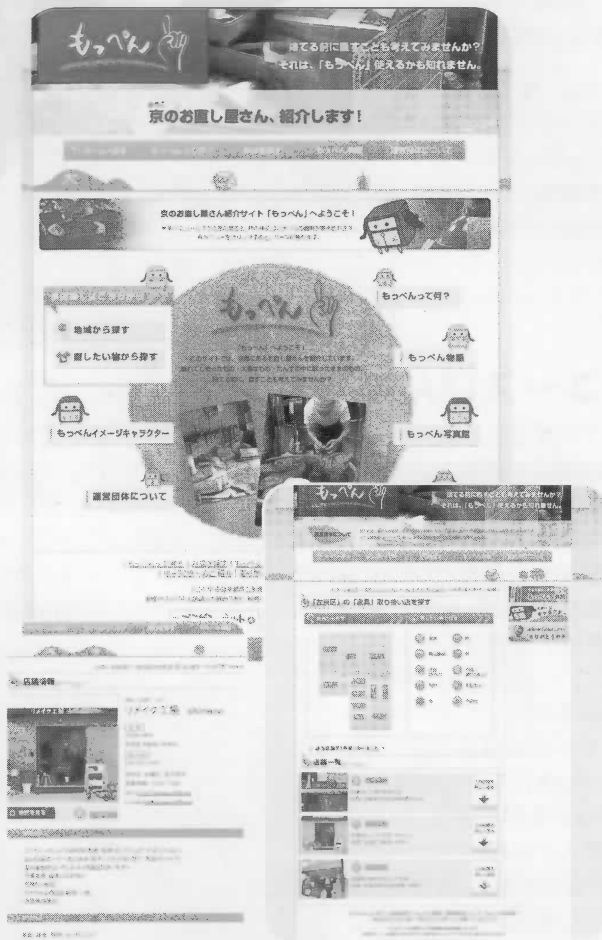


ごみを減らそう!!



— 京都市ごみ減量推進会議 —

No.35 2008.3



● 2月9日(土)衣類や鞆など、日用品の修理やリメイクに携わるお店の情報をまとめて紹介するホームページ「もっぺん」が公開された。お店の取材もデザインも学生が担当。若さと楽しさあふれるホームページになっている。

URL <http://www.moppen-kyoto.com>

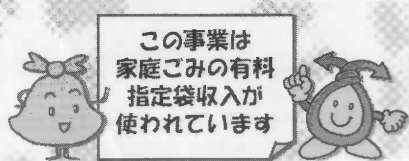
●「出町キックオフイベント写真」

2月16日(土)出町商店街で、エコ商店街事業のキックオフイベント「出町でエコに出会う日!」が開催された。リユース食器で提供された大根炊きやみたらしだんご、ばら売りされている商店街自慢の逸品を、思い思いに盛り付けたオリジナルランチプレートなどに1000人を超える参加者が舌鼓を打った。



◇ 市民公募型パートナーシップ事業募集のお知らせ ◇

京都市ごみ減量推進会議は、ごみ減量・リサイクルに関する企画及び取組を市民団体から公募し、循環型社会の実現に資する事業に対して助成をしています。下記のとおり事業の募集をおこないますので、皆様奮ってご応募ください。



■助成対象事業

循環型社会の実現に向けた事業(ごみ減量・リサイクルに関する事業)で平成20年度内に実施、完結する事業。事業形態は、特に定めませんが、継続的な事業の推進を目的とした具体的な事業実施を伴うものに限ります。

■助成対象団体

助成対象となる市民団体は、次の要件をすべて満たしているものとします。

- (1) 本事業の趣旨を理解した市民団体(法人格の有無は問わない)であること。
- (2) 規則や会則があり、運営委が自主的、民主的に行われていること。
- (3) 京都市内に活動拠点があり、京都市内を主な活動範囲としていること。
- (4) 提案した事業を実施する体制及び実績があること。
- (5) 団体以外の市民の協力、参加が得られること。

■募集期間

平成20年4月下旬～5月下旬(予定)

■助成額

1事業当たり50万円を上限とします。

■お問合わせ

詳しくは、京都市ごみ減量推進会議事務局
075-647-3444 までお問合わせください。

2R型エコタウン 構築事業の最前線

2R型エコタウンとは、Reduce(ごみの発生抑制)、Reuse(再利用)に重点をおいたまちのこと。これは平成15年に策定された「京都市循環型社会推進基本計画(京のごみ戦略21)」で謳われているが、こうしたまちづくりは、市民、事業者、行政のいずれかだけの努力で達成できるものではない。まさに、各主体のパートナーシップ組織である京都市ごみ減量推進会議にふさわしいテーマといえそうだ。今回は、本年度立ち上げられた「2R型エコタウン構築事業実行委員会」の取組を紹介する。

【京のお直し屋さん紹介サイト「もっぺん」オープン】

身の回りのものをすぐに捨てるのではなく、直して「もっぺん(もう一度)」使う。京都で培われてきたそうした文化、そしてその楽しみを見直してもらいたい。そんな思いで誕生したのが「もっぺん」だ。ホームページで市内の修理やリメイクに携わる店舗を紹介し、潜在的な需要を掘り起こして、まちの2R化に貢献することも目標としている。お店の情報は1軒1軒、学生が足を運んで集め、地域や直したいものごとに整理して紹介している。楽しさとわかりやすさを意識し、お店の方の一言メッセージや周辺のプチ京都情報も掲載。お直しやリメイクの体験記や、お直し前後の写真が見られるページもある。電話帳感覚で、ぜひ気軽にご利用いただきたい。なお掲載店舗は、今後も増やしていく予定だ。



イメージキャラクター「もっぺん」

【エコ商店街】

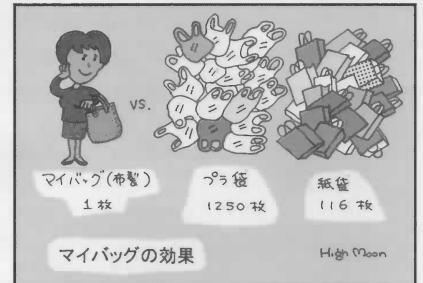
「はかり売り」や「はだか売り」など、商店街の昔ながらの商売の知恵にはごみ減量の秘策が隠されている。そうした知恵を見直し、商店街の活性化も実現していくのが「エコ商店街事業」。昨年、事業を共同して進めるモデル商店街を公募した結果、出町商店街振興組合に決まった。2月16日にはキックオフイベントを開催し、「はかり売り」されている商店街自慢の逸品を自在にプレートに盛り付け、自分だけのランチを楽しめる企画や、大根炊きなどをリユース食器で提供する企画を実施。

1,000人を超える人が集まり、商店街は大いににぎわった。現在、はだか売り等の効果を検討する買い物実験などにも取り組んでおり、それぞれの成果をもとに、商店街や地域の方々との協議を重ね、来年度事業の具体化に向けた作業を進めていく。

【買い物袋の持参】

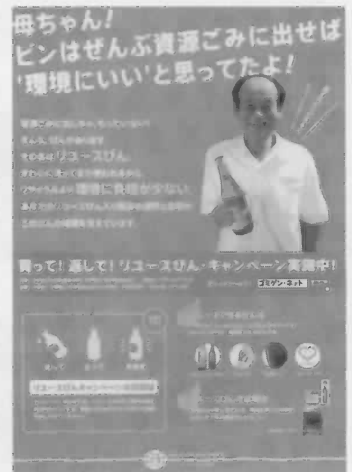
ごみ減量推進会議発足当初から取り組んでいた買い物袋持参運動。昨年、京都市ではレジ袋の削減を狙ったマイバッグ持参協定が締結され、マイバッグ持参の取組が活発化している。現在、レジ袋の有料化を実施している店舗では、マイバッグ持参率が80%を越えるところもある。しかし一方で心配なのは、マイバッグが大量に消費され、捨てられること。本来の目的を忘れることなく、気に入ったマイバ

ッグを大切に、長く使うというメッセージを込めながら、ポストカードやステッカーを制作し、イベント等での啓発などに取り組んでいる。



【リユースびんの普及啓発】

洗って何度も使えるリユースびんは、ごみの減量や二酸化炭素の排出量削減に効果的。しかも京都では、びんを回収、洗浄し、メーカーに販売する事業者も活躍している。しかし、近年はリユースびん入り商品の減少が顕著で、そうしたリユースびんの独自の流通システムの再構築が急務だ。京都市ごみ減量推進会議では、これまでのリユースびんの回収拠点マップ作成やリユースマークの普及啓発に加え、京都硝子壺間屋協同組合とも連携し、リユースびんの判別が容易になるように、一部の大型スーパーや小売酒販店などの売り場でリユースびん入り商品の目印表示などを実施中だ。一人ひとりの購入と返却が、リユースびんシステムの原動力。消費者がリユースびんを区別しやすくすることは、リユースびんシステム再構築に欠かせない。より多くの人々が主体的に取り組めるよう、事業展開を図っていくことが今後のポイントとなる。



2R型のライフスタイルは、決して我慢の生活ではない。多くのものを消費することに執着するのではなく、ひとつひとつのものをじっくり味わう生活なのだ。ほんの少し視点を変えれば、2Rの先に新たな豊かさが見えてくる。2R型エコタウン構築への挑戦は、まさに始まったばかりだ。
事務局 野村直史

◆ 捨てるものと利用するもの ◆

チックタックチックタックポ〜ンボン。思い出の古い柱時計。何年も何十年も納戸の中で眠り続けた秀逸の道具。そんな柱時計に再び「私と共に生きる“とき”を刻んでもらいたい。」そんな思いを抱く人が今増えている。

三条通富小路の勝屋さん。時計のリペア(修理)専門店である。通りからほの見える修理作業中の技能士さんたちの姿が何故かなつかしく、またあたたかい。若い技能士さんが多いのにも驚かされる。修理を依頼しにくる人は若い方からお年寄りまで世代を超えていると聞いた。

今、人と道具の関係が甦る。「親のかたみ分けなのでどうしても」「大切な思い出の品だか

ら。」と顧客は生きざまを語っていく。依頼する者と引き受ける者。そこに生まれる「再生」への願いが“時計”という道具に託されていく。時を重ねることのよこび。時を待つことの楽しみ。あるいは苦しみ。そこをしっかりと見つめていくことの大切さが今、再び価値を持ち始めている。時計という道具がそのことを伝えてくれる。

今、捨てる時代ですか?いいえ、無くなる必要のなかったものに光をあて、道具、モノと共に生き、共に育ちあう時代なのでは。

勝屋さんの作業場とお客様の心に今日もまたひとつ、あかりが灯ります。
大橋正明

時計のリペア専門店勝屋はホームページ「もっぺん」でも紹介されています。
<http://www.moppen-kyoto.com>

シリーズ 会員 探訪

京都環境事業協同組合

所在地：〒601-8317 京都市南区吉祥院新田式ノ段町 6 5
 TEL：075-691-5516
 FAX：075-662-0775
 HP：http://www.k-kankyone.jp/
 理事長：新川 耕市
 設立：昭和 35 年 8 月
 組合員数：84 社
 事業概要：京都市の「一般廃棄物処理業」の許可を得て、京都市内の店舗・事務所・工場・会社などから出る『事業系ごみ』から、家庭で廃棄される『粗大ごみ』を収集、運搬、処理する業者の組合です。

市民団体、事業所、各種事業者団体、専門家など、多彩な顔ぶれで構成される京都市ごみ減量推進会議。今回は、京都環境事業協同組合の活動を取材しました。

京都環境事業協同組合

Q 京都環境事業協同組合の取組みについて教えてください。

A 現在、京都市から許可を受けた 84 の一般廃棄物処理業者が協力し、京都市内で排出されるごみの減量を実現するべく活動を続けています。京都市廃棄物減量等推進審議会への参加をはじめ、組合員を対象とした研修を年 4 回行うなど、組織としての意識向上にも努めています。

Q 一般廃棄物とは？

A 廃棄物には、大きく分けて家庭系ごみと事業系廃棄物があり、事業系廃棄物は更に産業廃棄物と事業系一般廃棄物に分かれます。当組合で扱っているものは、事業系一般廃棄物であり、主にオフィスから出る紙くずや飲食店から出る生ごみなどを回収しています。



Q ごみの減量を進めるための、排出事業者への働きかけについて教えてください。

A 排出事業者の意識の改善を図るため、組合が 5 つの班に分かれて、各事業所に対し適正なごみの排出にご協力いただけるよう説明をおこなっています。平成 20 年 4 月からは京都市の事業系ごみの手数料が値上げされるため、理解と協力を得られるよう一層の努力をしています。

Q 排出事業者の意識は変化していると感じますか。

A 少しずつ改善していると思います。一番大切なことは、排出事業者にごみ減量に対する意識を持ってもらうこと。そのためには、京都市と連携して啓発活動を継続していく

必要があります。しかし、京都市は特に中小零細企業が多いため、ごみの適正排出における意識の改善が充分になされておられません。排出事業者一人一人の意識の向上が、ごみ減量につながる第一歩だと確信しています。

Q 今後の課題についてお聞かせください。

A 排出事業者は、ごみの排出量削減に取り組むとともに、分別を徹底する義務があります。事業系一般廃棄物の分別回収を進めるためには、受皿整備や排出事業者のコスト負担の軽減についても京都市と協議を重ね、排出事業者の現状に合った制度作りを実現していかなければなりません。また、マンション等から排出される事業系ごみの分別回収についても住民の意識を高められるよう啓発活動を更に進めていきたいと思っています。



環境事業協同組合事務局
 左から 山根拓也専務理事、近藤恵三事務長、新川耕市理事長、田邊美香さん

ごみの分別排出を徹底すればするほど、排出事業者の費用負担が大きくなる現実を踏まえ、分別排出、更にはごみの発生抑制に繋がる有効な仕組み作りが強く求められている。事業系一般廃棄物の回収事業を通して、排出事業者と行政の間を繋ぐ京都環境事業協同組合の活動が、今後益々重要になってくる。

また、事業系一般廃棄物としてマンションから排出されるごみの多くは、市民によって排出される家庭ごみ。私たち一人ひとりが、ごみ減量の意識を持ち、実践に繋げていくことが何より大切であると感じた。

取材日：平成20年2月19日/取材：事務局 松村 香代子

行政からのお知らせ

<事業系ごみ処理手数料の改定について>

京都市では、一般廃棄物収集運搬許可業者が店舗や事業所などから出る事業系ごみ（紙くず・生ごみなど）を市の焼却施設に搬入する場合のごみ処理手数料を、下記のとおり段階的に引き上げます。ごみ処理手数料とは、市の施設に運ばれてきたごみを焼却処理した上で、残った焼却灰を埋立処理するのに必要な費用の一部であり、事業者の皆様が許可業者に支払われている料金から京都市が徴収させていただいているものです。この引

き上げ分につき、許可業者を介して事業者の皆様にご負担いただくこととなりますので適正な料金負担にご理解、ご協力をお願いします。

実施時期	現在	平成 20 年 4 月～	平成 23 年 4 月～	平成 26 年 4 月～
手数料	500 円 / 100kg	650 円 / 100kg	800 円 / 100kg	1,000 円 / 100kg

詳細は廃棄物指導課ホームページアドレス

<http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000001501.html>

お問合わせ

京都市環境局 循環型社会推進部廃棄物指導課
 TEL：075-213-0926

ごみ減 地域活動レポート

【地域にエコの花を咲かせよう 育てよう】

朱八地域ごみ減量推進会議(中京区)

朱雀第八学区こと朱八が使用済みてんぷら油の回収に乗り出したのは、約10年前のこと。中京区の会議の席で京都市ごみ減量推進会議の職員の話聞いたのがきっかけだったという。「善は急げ」と地域の自治連合会に連絡をとり、回収のお知らせを回覧し、さっそく回収を始めた。昨年度から地域ごみ減量推進会議を旗揚げし、現在では回収拠点も11カ所に。しかし、会長の織作さんや副会長の須田さんは、「学区が広いので、本当はもっと拠点を増やしたいが…」と現状に満足していない様子。今後も世帯数の多いマンションの管理人などに協力を呼びかけていく考えだ。

同会では、近くを流れる紙屋川(天神川)の清掃も行っている。「始めてからもう20年ほどたつ」という清掃作業は、当初は女性会によって担われていたが、近年、地域行事として定着。朱雀第八小学校では4年生の授業の一環に組みこみ、児童らも参加するところとなった。「学校で環境問題について学んだことを子どもが家で話し、家族の意識が変化する、というよい循環がみられる」といい、活動の継続に手ごたえを感じている。実際、使用済みてんぷら油の回収の際も、京都市の取り組みを授業で知った児童の保護者が油を持参してきてくれたこともあったそうだ。地域にまかれた種は新しい芽を出し、やがてしっかりと根をおろす。そんな思いから、喜びが生まれる。

また、昨年度は、3月に廃油からせっけんを作り、7月に京都市北部クリーンセンター(右京区)へ見学に出かけるなど、順調に活動を展開してきている。「今度は京都市廃食用油燃料化施設(伏見区)に見学に行きたい」と意欲も充分で、今後の同会の活躍にも期待が寄せられる。

取材日:平成20年2月20日/取材:佐藤明子



回収風景

(左から)高木寿枝さん、須田米子副会長、織作照子会長、上田純子さん



- ◆会長:織作照子 ◆発足:平成19年10月
- ◆学区世帯数:約4,800世帯
- ◆使用済みてんぷら油の回収:毎月第3水曜日、正午~午後1時(拠点は11カ所)

NEWS

NEWS

2008年

1月の出来事

- 1月19日(土)
出町商店街でのごみ減量ワークショップ
「出町で三丁目の夕日! ~ごみ減らしからはじまる新たなビジネスチャンスの可能性~」
(会場:出町商店街集会所)
講師:丸山 郁男氏(元(株)タカシマヤ環境社会貢献担当)
コーディネーター:浅利 美鈴氏
(京都大学環境保全センター助教)



2月の出来事

- 2月1日(金)
KES普及セミナー「KESで始めよう!公共施設の環境対策」
講演:京都市環境局環境管理課、京のアジェンダ21フォーラム、NPO 法人 KES 環境機構、事例報告:(財)京都市女性協会、京エコロジーセンター
- 2月16日(土)
出町商店街でごみ減らしの知恵をご紹介「出町でエコに出会う日!」
(会場:出町商店街)
リユース食器やリユースプレートを使って大根炊きやオリジナルランチを楽しみました。
- 2月29日(金)
第2回常任理事会開催
(会場:ハートピア京都)



3月の出来事

- 3月1日(土)
普及啓発実行委員会開催(会場:職員会館 かもがわ)
- 3月4日(火)
リユースびん回収拠点マップに関する懇談会開催
(会場:京都商工会議所)
- 3月14日(金)
第43回理事会開催(会場:職員会館 かもがわ)

京都市ごみ減量推進会議会報誌 ごみを減らそう! No.35

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
京エコロジーセンター活動支援室内
TEL:075-647-3444 / FAX:075-641-2971
E-mail: gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp
URL: <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html>

🔍 で検索出来ます

【入会のご案内】

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたいと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民団体、事業者、行政により1996年11月に設立した団体です。パートナーシップで多彩な活動を展開中。京都市ごみ減量推進会議では、ともに活動をする会員を募っています。詳細は、事務局へ問い合わせください。TEL:075-647-3444

企画編集:京都市ごみ減量推進会議 普及啓発実行委員会
(会報誌・ホームページ小委員会)